

令和6年度 第1回学校運営協議会兼コンソーシアム役員会議事録

1 日 時 令和6年7月3日(水) 17:30~19:00

2 会 場 松江北高等学校 会議室

3 全体協議

(1) 役員選出

以下の役員を選出

学校運営協議会	会長	坂本 拓三	副会長	原田 瑞樹
コンソーシアム役員会	会長	坂本 拓三	副会長	泉 雄二郎
			副会長	伊藤 康子

《学校運営協議会》

(2) 令和6年度教育目標・教育方針・重点指導目標等について〔資料により校長伊藤が説明〕

○重点指導目標1の変更について

(変更前) ……「読む力」「書く力」「伝える力」を育成する。

(変更後) ……「読む力」「書く力」「思考を広げる力」「伝える力」を高める。

基礎学力が十分でない生徒もいると思うが「高める」で適切か。

⇒実際には基礎学力が十分でない生徒もいるが、かなり高い学力を有する生徒もいる。本校の生徒にはこれまでつけてきたこれらの力をさらに「高める」という目指すことが必要と考え設定した。

(3) 令和6年度学校評価アンケートについて〔資料により教頭石飛が説明〕

○令和4年度に比べると令和5年度の肯定的評価の割合が高いのはなぜか。

⇒令和4年度の2年生において肯定的評価の割合が低かったが3年生になって高くなったのが大きな要因。

(2)(3)の内容について承認【運営協議会要綱第10条】

《魅力化コンソーシアム》

(4) 令和6年度魅力化事業及び予算について〔資料により教頭石飛・主幹教諭原が説明〕

○普通科の探究学習を地域課題研究から個人の興味関心に基づく個人探究に変更されたが、「ふるさと教育」の視点についてどのように考えるか。

⇒本校の生徒に必要なことは、個人の興味関心に基づいて深い学びを行い、専門性を高めることだと考えている。そして、その学びや専門性をふるさと、地域のために生かす生徒が出てきて欲しいと考えている。また、探究課題のテーマに地域課題を取り上げる生徒もいる。

(5) 令和6年度コンソーシアムの部会について〔資料により校長伊藤・教頭石飛が説明〕

〔全般について〕

○狭義の教育を学校、それ以外についてコンソーシアムが支援するという考え方がよい。

〔広報・生徒募集について〕

○学区がなくなったことを考えて、松江北高校がどのような色を出していくかが大切。

○誰に対してどのような魅力を発信していくかが重要である。志願倍率を見れば、北高の魅力を伝え切れていないように思える。

〔キャリア教育について〕

○島根県の医療人材の育成が急務であり、キャリア教育に医療系分野のものが必要。

〔探究・研究について〕

○普通科が個人探究となったが、地域に関することに興味関心を抱いて探究を進めていく生徒に対して支援をできればよいと考えている。

(5) (6) の内容について承認【コンソ規約第8条】